

公益財団法人 四万十川財団  
TEL 0880-29-0200  
FAX 0880-29-0201  
Mail office@shimanto.or.jp  
URL http://www.shimanto.or.jp



「よみがえれ！四万十のあゆ」と題しての発表。



水生生物調査の様子。

## ■四万十川の鮎を未来へ繋げるために。part II

先月号では天然鮎資源の再生について高橋氏の取りくみを紹介したが、今月号では西土佐小学校4年生の取りくみについて紹介したい。

四万十川の下流域に位置する四万十市西土佐地区。人口約3000人の小さな地区であるが、2013年には暑さ日本一を記録して注目を浴び、昨年4月には四万十市初の道の駅「よって西土佐」が完成するなど賑わいをみせている。鮎やテナガエビが豊富で漁業が盛んに行われており、道の駅内では「鮎市場」という店が自慢の鮎を販売して観光客を楽しませている。また、夏になれば子ども達が川で遊ぶ姿もよく見かけられ、流域の中でも比較的川との関わりが深い地区であると言えるだろう。

我々と西土佐小学校4年生の子ども達が出会ったのは、四万十川の水

質調査がきっかけであった。四万十川条例で川の保全を図るため地域住民と共に水質調査を行うこととなっており、西土佐小学校の子ども達には毎年その調査に協力してもらっている。昨年も例年通り水質調査を実施したのだが、しばらくして、四万十川の鮎が減っている原因について教えて欲しいと学校から連絡があった。担任の先生の話によると、四万十川の鮎が危機的状況にあると知った子ども達はその原因や鮎を増やす対策について調べていて、疑問を持った点について我々に話を聞いてみたいとのことだった。他にも道の駅の駅長や家族への聞き取り、文献の調査なども行ったようである。そして先日、1年間の学びの成果を保護者や地域の方に向けて発表する学習発表会があり、我々も招待を受け、参加させてもらった。

子ども達の発表内容は次項にまとめるが、鮎資源の減少とその対策について自分の言葉や表現に置きかえて発表している様子からは、今回の調べ学習が一方的な学びではなく、子ども達がこの問題を自分自身のこととして捉え、考えてきた学習であったことが感じとれた。将来を担う子ども達の四万十川に対する興味関心が高まり、知見が深まったことは、四万十川を守り続けていく上で非常に重要である。今後も学校と地域が連携したこのような質の高い学習が行われていくよう、我々もサポートを続けていきたい。

## ■よみがえれ！四万十のあゆ



子ども達が調べた四万十川の鮎が減少した原因とその対策について簡単にまとめた。途中、鮎の家族の劇などが取り入れられ、下級生にも分かりやすい発表であった。

### 原因1) 四万十川の水の汚れ

川砂利の減少や山の手入れ不足による水の浄化機能の低下と、家庭や田んぼからの排水が川に流入していることで四万十川が汚れているのではないかと考えた。しかし、水質調査の結果からは水質は良く、透明度も高いことが判明し、前述のような事象は確かに起きているが、昔と比較して水質が悪化しているとは言い切れないという結論になった。

### 原因2) 四万十川の水の減少

発電のために多くの水が利用されたり、山の手入れ不足により保水力が低下したことで川の水が減っている。

### 原因3) 岩や砂利の減少

川の中の岩が減ったことで鮎が隠れる場所が減り、エサとなる苔が減少したために鮎が川で暮らせなくなっている。また、産卵に適した砂利が減っているために、個体数も減ってしまっている。

### 原因4) 冷水病の蔓延

多くの鮎が冷水病の被害にあっている。感染力が強く、直らない病気であるため太刀打ちできない。

- これから自分達にできること
- ・ポスターを作って啓発活動をする。
- ・鮎の産卵場の造成の手伝いをする。

## イベント情報

## 四万十リバーフェスタ 2017

- 日 時：4月23日(日)
- 時 間：10:00~15:00 (※神事は9時から行われます)
- 場 所：四万十川川遊び公園ふるさと交流センター
- 参加費：無料
- ※天候による川の増水時は、川遊びが中止になる場合があります。
- ※ラフティング、カヌーは保険料として料金が発生します。
- ※ラフティングは事前申し込みが必要になります。

- お申し込み・問い合わせ先：
  - ▼ラフティング申込や現地に関するの問い合わせ  
ふるさと交流センター TEL:0880-28-5758
  - ▼その他のお問い合わせはこちら  
四万十町観光協会 TEL:0880-29-6004